

II - 3 参加都市発表

鹿児島市(日本国) 「高齢者の生きがいづくりに関する取組みについて」

永野 善造

健康福祉局すこやか長寿部
長寿支援課主幹

鹿児島市の人口は約60万5千人で、ここ数年ほぼ横ばいだが、高齢化率(人口に占める65歳以上の割合)は、2010年の21.2%から、2014年には23.1%へと上昇している。少子化による若年人口の減少と平均寿命の伸びが高齢化の大きな要因であると言われている。

市は現在、第5期「鹿児島市高齢者保健福祉・介護保険事業計画」(2012年から3か年の計画)に基づいて各種施策を実施している。この計画は、(1)「高齢者が健やかに暮らせる生きがい対策の充実」、(2)「高齢者が安心して快適に生活できる福祉の充実」、(3)「介護保険制度の円滑な運営と地域包括ケアの推進」を基本的な目標として掲げている。本日は、上記(1)の中の主な事業について紹介する。

まず、「敬老バス交付事業」について。敬老バスは、市内を走る市営バス、市電、民間バス、市街地と桜島を結ぶフェリーが正規運賃の3分の1の料金で利用できるICカードで、70歳以上の市民は誰でも申し込める。また、敬老バスを提示すると、美術館や動物園、プール等の市営施設で利用料金が免除される。

この敬老バスには、「すこやか入浴券」の機能も付いている。市内には多くの公衆浴場があり、ほとんどが温泉であることから、公衆浴場(温泉)を活用して高齢者に健康で生きがいに満ちた生活を楽しんでもらえるよう、年間30回まで、通常料金の3分の1(100円)で公衆浴場を利用できるようにしている。

続いて「敬老祝事業」について。社会に永年貢献してきた高齢者を祝福し敬老の意を表すため、88歳の誕生日を迎えた方、100

歳の方、市内最高齢の男女に、お祝い状と祝金(88歳の方へ3万円、100歳の方へ10万円、市内最高齢の男女へ20万円)を贈呈している。

また、「すこやか長寿まつり開催事業」では、各種のスポーツ大会のほか、踊りやダンス、合唱の発表会、芸能人によるステージショー等の「ねんりんステージ」、絵画や書、陶芸等の「高齢者作品展」を毎年開催している。

次に「元気高齢者活動支援事業」は、専門的な技術等を習得している高齢者を「元気高齢者」としてボランティア登録し、老人クラブや町内会等に講師として紹介する制度で、歌や踊り、パソコン講座、体操、絵画、陶芸、語学など幅広い分野で登録されている。

「高齢者福祉バス運行事業」では、老人クラブ等の高齢者団体が教養活動や健康増進の活動を行う際に、目的地まで送迎を行う、高齢者福祉バス(3台)を無料で運行している。

最後に「高齢者福祉センター」について。高齢者相互のふれあいと交流を図り、生きがいと健康づくりを支援する拠点施設として、現在、6か所のセンターを設けている。センター内には、集会室や教養講座室、図書室、浴室やトレーニング室等があり、65歳以上の市民が無料で利用できる。囲碁や将棋、踊り、ダンス、カラオケ等の講座も多く開かれ、トレーニング室や水着浴室、温泉浴室も大人気で、健康・体力づくりに一役買っている。

市では、明るく活力に満ちた高齢社会を築くため、これからも、住み慣れた地域での高齢者の生きがい・仲間づくりを推進していく。

クアラルンプール市(マレーシア) 「マレーシアの高齢化社会 －クアラルンプール市の経験－」

Khairul Anuar Bin Mhd. Juri
ティティワンサ議会エリアマネージャー

マレーシアでは60歳で定年を迎るために、60歳以上を高齢者としている。現在、総人口約2,800万人のうち8%の約225万人が高齢者だ。一方、クアラルンプール市の高齢者は人口の8.5%の約147,000人である。

本市の高齢化の第1の課題は身体的な課題で、高齢者の糖尿病、膝の問題などがある。このため高齢者は車いすや杖がなければ歩けないなど、移動の制限の問題も出てくる。

2番目は経済的な課題だ。定年時に公務員は給与の半額に相当する年金を受け取る。自営業者や民間企業の従業員には従業員積立基金がある。しかし基金の不適切な管理によって、低所得や無収入の人々の問題も出てくる。

3番目は社会的な課題だ。特に低所得の高齢者のなかには働いていた期間に家を購入しなかった、あるいは購入できなかった人がいる。そのため、退職時に住居の問題を抱えることになるのだ。また、退職後に何をしたらよいか分からず人もいる。

そこで連邦政府はこれらの問題に対し、2つの取組みを実施している。第1に経済的支援として、高齢者が公共交通機関を半額で利用できるように割引制度を設けている。また、超低所得者向けに、ひと月に約150~300リンギット(70~80米ドル)の手当を支給している。さらに連邦政府は特にクアラルンプールのような都市部で公共住宅を提供している。

第2に施設面では、公共住宅は連邦政府、民間部門、クアラルンプール市役所が責任

を共有し、一戸当たり42,000リンギット(約12,000米ドル)以下の低価格の住宅を建設している。また、高齢者活動センターを設立していて、高齢者同士の社会・宗教活動など、様々な活動の場となっている。

公共住宅は現在、全部で74,704戸あり、そのうち4.35%にあたる3,250戸に高齢者が居住している。市は公共住宅のメンテナンス、清掃、警備を担当している。

資格要件を満たした高齢者には、公共住宅を無償で貸与している。賃料は1か月125リンギット(約30~35米ドル)と非常に安価だが、支払うことができない人もいる。

また、高齢者が住宅敷地内の商店街の一角を借りて事業をすることや、小さな商店を経営する許可を与えている。

インフラ面では、障がい者のために警報装置やバリアフリー設備を設置するほか、17階建て公共住宅の1~5階までの低層階に入居できるような優遇制度を設けている。

社会面では、老人クラブを立ち上げ、太極拳、ゲーム、料理教室、清掃などの活動をしている。また、連邦政府は公共住宅に診療所を開設しているが、市がその運営を担当している。一回の診察費が約2リンギットと非常に安価で住民も通いやすくなっている。

マレー語に「若者を愛し、年配者を敬え」、また、「老いは金」ということわざがある。高齢者はまだ社会に活躍の場があり、地域における資産だと見える。市は彼らがこれからも積極的に社会に貢献できるよう、あらゆる必要な手段を講じる。高齢者が安心して、仲よく、最も快適な環境で暮らせるようにすることが私たちの責任である。